

経営学部経営学科の教員養成に対する理念・構想

経営学部は、校訓「三実」（「真実」・「実用」・「忠実」）を教育理念とし、3つの「実」にそれぞれ対応する形で「問題発見能力」（真実）、「問題解決能力」（実用）、「コミュニケーション能力」（忠実）の向上をはかることを教育目的としている。経営学部の学生は、幅広く教養科目を学ぶとともに、経営・情報・会計・流通などの専門コースにおいて、理論に裏づけられた専門的知識を修得するなかで、それら3つの能力を高めていく。教員養成にあたっては、教養科目を学び、4つの専門コースで学ぶなかで、幅広い教養知識、専門知識、技能、思考力、意思の伝達と表現の能力などを身につけさせることが必要である。また、その知識や技能を活かして問題解決のために実践的に行動できる態度も不可欠である。さらには、公正な倫理と使命感を持ち、教員という職業を通して社会のために積極的に関与することも重要である。経営学部では、そうした教員養成の理念にもとづき、高等学校の商業科および情報科の教員として活躍することのできる有為な人材を育成することを教育目的とする。

経営学部経営学科に教職課程を設置する趣旨

○高等学校教諭一種免許課程（商業）の設置趣旨

経営学部においては、商業科教員をめざす学生が、経営学、会計学、商学などの専門知識を深く学び、それと同時に、教育実践のなかで重要である問題解決能力や、学校現場で要請されるコミュニケーション能力を培う。経営学部では、企業、組織など、社会の諸事象について論理的に考えることができ、また、企業、組織と社会との関係について理解し、説明できる力を養う。経営学部では、1年生から4年生まで少人数のゼミによる指導体制をとり、また、企業との産学連携事業にも積極的にいかかわり、企業経営の実践的な業務についても学ぶ。経営学部を卒業する学生は、それらの能力を活かすことのできるさまざまな職業に就いて社会のために積極的に関与するが、高等学校における商業教育を担う教員として活躍する人材を養成することも、経営学部の果たすべき重要な責務のひとつである。経営学部は、理論と実践を有し、かつ広い視野と適切な判断力を有した商業科教員を養成して、教育界に貢献する。

○高等学校教諭一種免許課程（情報）の設置趣旨

経営学部においては、情報科教員をめざす学生が、情報科学の専門知識を深く学び、それと同時に、教育実践のなかで重要である問題解決能力や、学校現場で要求されるコミュニケーション能力を培う。経営学部では、1年生から4年生まで少人数のゼミによる指導体制をとり、企業や組織などの諸問題についてITスキルや分析方法を効果的に活用し、また、ITスキルを活用して他者に自己の考えを伝えたり、他者の考えを聞いて理解することができる力を養う。そのなかで、情報を収集・分析したり、問題を適切に解決できる能力が身につく、それはさまざまな分野の職業で活かすことができるが、高等学校において「情報」を担当する教員として、そうした能力が発揮されれば、教育界に大きな貢献ができる。そこで経営学部は、理論と実践を有し、かつ広い視野と適切な判断力を有した情報科教員を養成する。